沼田さんを偲んで

河上　年博

沼田さんとの出会いは、1988 年 10 月の京都国体の時であった。沼田さんは、京都府成年男子の選手で、現役選手として最後の大会であった。当時、私は、山口県成年男子の塚田拓司監督のもとコーチをしていた。山口県は 1 回戦で佐賀県に勝ち、2 回戦で京都府と対戦した。結果は 16 点差の敗退だったが、開催地の京都を相手にこの得点差は、善戦であったと言えよう。沼田さんも「下見に行った 1 回戦では強いチームではないという印象でした。ところが、試合になると見違えるような気迫あるプレーに圧倒され、最後まで苦しめられ、相当あわてた思い出があります。地方にも、がんばる素晴らしいチームがあるのだなと思った次第です。」語ってくださっている。(山口県バスケットボール協会 60 年史「夢を追う」より)

その 2 ヶ月後、その沼田さんが転勤で山口に来られることになった。沼田さんは、ミュンヘン、モントリオールと 2 度オリンピックに出場し、日本リーグの名門・松下電器の全盛期を支えてきた、まさに日本を代表するビッグ・センターである。京都国体で、「山口県は侮れない」という印象を与えられたとは思うが、それがなんぼのものか。どのように接すれば良いのか。相手にしてもらえるのか。不安が募るばかりであった――。実際に来山されると、私の不安はすべて取り越し苦労だった。沼田さんは、その身長とは真逆に、本当に腰の低い方で、誰に対しても穏やかに接せられ、京都訛りでユーモアもあり、豊かな人間性がにじみ出る方だった。そして、なによりも山口県のバスケットボールを高く評価してくださっていた。

早速、山口県の成年男子チームへのアドバイスをお願いした。以来、ずっと懇意にさせていただいた。思い出は、数え出すときりがない。

山口に来られた翌年の 1989 年、ミニ国体会場の鳥取に行ったときのことである。チームは土日の試合に備え、すでに現地入りしていたが、私は、沼田さんが仕事を終えるのを待って、金曜日の夜に一緒に鳥取に向かった。午前 0 時に山口を出発し、早朝に鳥取に着いた。体の大きな沼田さんには、私の車の助手席は狭すぎて申し訳なかったが、夜掛けの道中、バスケットの話で会話がはずみ、時間の経過を感じることなく到着したことを思い出す。

経験豊富で日本の第一線で活躍されてきた沼田さんのバスケット観には、一本筋が通っていた。当時の成年男子チームは教員主体で、それを実業団の選手や学生が補強する形だった。エース中村浩正氏（現・強化委員長）は、得意とした速攻からのストップ３Ｐシュートを沼田氏から封印された。沼田さんは、チームのバランスを大切にし、ガードがやり過ぎることを是としなかった。数年後にこの封印は解かれたのだが、今でも中村浩正氏と当時の話になると、この「３Ｐ封印」の話になり、苦笑する。

沼田さんは、1997 年 4 月に本社に戻られた。実に 8 年の長きにわたり、山口に住まわれ、山口のバスケットボールに多くのものを残してくださった。本社に戻られた後、日本協会の強化部長という重要なポストに就かれたが、その後も親交は続いた。国体、インターハイ、ウィンターカップには、私は、たとえチームが出場しなくても、視察には毎回行くことにしている。大会期間中に日本協会の強化会議が開

かれることが多かったようで、会議後、私に電話がかかり、居酒屋で待ち合わせて遅くまでバスケ談義をすることが恒例となっていた。

2002 年 8 月の茨城インターハイのときも合流して、当時松下電器が 3 年契約で招へいしたポールウェストヘッド氏の速攻理論を山口県少年男子にクリニックできないかと打診した。ポール氏は、1980 年にレイカーズが NBA チャンピオンになったときのヘッドコーチである。NBA の元コーチが山口県の高校生を直接指導するというビッグイベントが、なんと 9 月中旬には実現した。ポール氏は奥様と来県され、土曜日は萩焼の窯元など県内観光してもらい、日曜日に宇部でクリニックをしてもらった。沼田さんは協会の仕事で当日の来県はできなかったが、松下電器の通訳の方が帯同するよう便宜を図ってくださった。沼田さんの気配りには頭が下がりっぱなしだった。

山口高校を指導する上でも、沼田さんの影響は大きかった。沼田さんのバスケット理論を吸収し山口高校用にアレンジして取り入れた。特にマンツーマンディフェンスの考え方が自分の中で整理できてからチームは上昇した。また沼田さんが同志社大出身ということで、卒業生が何人も同志社大学へ進学してバスケット部でお世話になった。

昨年 6 月、電話で話をしたのが最後となった。同志社大バスケット部のスタッフとして、大学に向かう途中、急に具合が悪くなり、即入院・手術になったということだった。ただ、そんな緊急で重篤な事態でも、救急車は呼ばず、近くの病院の受付に並んだという。いかにも沼田さんらしい。電話の声は普段と変わりなくお元気そうだったので、その後は回復されたものとばかり思っていた。

私が訃報を知ったのは、沼田さんと一番親しかった尾前さん（同志社大 OB で元監督）から先月中旬にもらった連絡であった。突然の悲報に言葉を失った。享年 71 歳。早すぎる。悲しく、無念でならない。亡くなられたのは昨年末の 12 月 28 日だが、日本協会の知人に聞くと、「聞いていない」という。訃報を知らせなかったのは、ご遺志だったのかもしれないが、いつまでもそのままではいけないだろうと思い、誠に僭越ながら、日本のバスケット界の恩人の訃報に、日本協会として対応していただくようお願いした。

白石中学校校長室にて（2012年8月） 左から、河上、沼田氏、塚田氏

山口県で、私ほど沼田さんに世話になった人間はいないだろう。今でも沼田さんの笑顔が脳裏に焼き付いている。沼田さんのバスケットへの情熱、山口に注がれた愛情を、決して忘れることはない。

心からご冥福をお祈りいたします。沼田さん、ありがとうございました。合掌。

（令和 5 年 5 月）